

検証に必要となる論点

設定基準	設定基準の有無	国際基準(PANS-OPS)、国内基準(飛行方式設定基準)への適合状況を確認する。また、国際基準に適合しない中で、当該国の独自基準(米国基準など)による方式である場合は詳細を確認する。
	導入例	海外空港又は国内空港における具体的な導入例を確認する。併せて導入空港の滑走路の形状、空港の周辺環境(陸域海上等)、取扱交通量、導入の背景(騒音影響軽減目的の有無)などを確認する。
	進入時に必要な直線距離	着陸直前の一定区間において直線飛行が必要となる距離について、設定基準上必要となる最短距離を算出する。また、機材や航法精度によって最短距離が変化する場合には全てのケースを検証する。
気象	着陸時に必要な最低気象条件	基準に基づき新経路を設定する際の最低気象条件を算出する。また算出された最低気象条件(値)と現在運用中の新経路における最低気象条件の比較検討を行い、当該方式の運用可能頻度も検証する。
施設・機器	必要な無線施設	当該飛行方式設定、また運用を行う上で必要となる無線施設の洗い出しを行い、整備に要する費用・期間を算出する。
	対応機材	当該飛行方式に対応可能な機材の割合について、外国航空会社の対応状況も含めて検証する。また、適合割合を考慮した上で、当該飛行方式導入予定時期を検証する。
	機上ナビゲーションデータ	国際基準に基づく方式については標準となるが、国際基準に基づかない方式の場合、機上ナビゲーションデータの標準としてコーディング可能か否か、方式毎に現状の対応状況を確認する。
運用ルール	運用基準の有無	同時進入方式の策定において、国際基準(PANS-ATM)や国内基準(管制方式基準)への適合可否、また、国際基準に適合しない中で当該国の独自基準によるものなどを検証する。
	安全性評価	同時進入に係る国際基準への適合可否を踏まえた上で、必要となる安全性を検証するため、想定される評価手法を検討した上で、評価に必要な期間、評価困難度について検証する。
	運用上必要な気象条件	同時進入における進入復行点を考慮した上で、管制運用上必要となる気象条件を検証する。結果、当該飛行方式導入に必要な気象条件を検証するとともに、想定使用頻度を検証する。